

# What kind of疑問文とWhat kind of {a/an}疑問文の意味と機能に関する実証的考察

— 名詞句の意味特性の分析を通して —\*

## An Empirical Study on the Semantic and Functional Characteristics of the Noun Phrase in the *What kind of*-Question and the *What kind of {a/an}*-Question

大竹 芳夫  
OTAKE Yoshio

### Abstract

This paper points to various characteristics of the *What kind of*-Question and the *What kind of {a/an}*-Question hitherto neglected, and clarifies its semantic and pragmatic properties. It is argued that the noun phrases in the *What kind of*-Question and the *What kind of {a/an}*-Question can be semantically classified into two types. In this paper, we have made a theoretical and descriptive exploration of the mechanism which outputs emotional connotation, focusing particularly on the noun phrases in the *What kind of*-Question and the *What kind of {a/an}*-Question. The semantic and functional characteristics of the *What kind of*-Question and the *What kind of {a/an}*-Question have been borne out by observing naturally occurring data.

Keywords: 名詞句, What kind of疑問文, What kind of {a/an}疑問文

### 0. はじめに

英語には、(1)のような“what kind of”で始まる疑問文と、(2a-b)のような“what kind of a”や“what kind of an”で始まる不定冠詞を伴う疑問文がある。以下、用例中のイタリック表示は筆者による。

- (1) “Hey, *what kind of dinosaur is that?*” Tweeker was curious to know if it was

going to try and have him for lunch. “According to my records that animal is a Brontosaurus. You will be pleased to know that it is a plant eating dinosaur.”

(B. Zimmerman, *The Story of Tweeker the Time Traveler*)

- (2) a. John Alexander, manager of Houlihan’s in Long Beach, Calif., notes that clients collect the plastic creatures and “often hang them from their glasses or from their ears.” Why so? Possibly the desperate need for new conversational gambits in singles bars. “*What kind of a dinosaur is that?*” sure beats “What’s your sign?” (TIME, Oct. 5, 1987)
- b. So *what kind of an investment strategy does this situation call for?* (TIME, Oct. 26, 1997)

(1)は“what kind of”に続く名詞句が不定冠詞を伴わない疑問文で、「ちょっと、それはどんな種類の恐竜なんですか?」という意味を表す。一方、(2a-b)は名詞句が不定冠詞を伴って“what kind of a”や“what kind of an”で始まっており、それぞれ「それはどんな時代遅れのしろものなのか?」、「では、この状況はどんな投資戦略を要求するのですか?」といった意味を表す。特に(1)と(2a)を比較すると、同じ名詞句“dinosaur”が(1)では“Hey, *what kind of dinosaur is that?*”のように不定冠詞を伴っていないが、(2a)では“*What kind of a dinosaur is that?*”のように不定冠詞を伴って発話されていることがわかる。

本稿では、(1)のような“what kind of”で始まり不定冠詞を伴わない疑問文をwhat kind of疑問文と呼ぶ。<sup>1</sup> 一方、(2a-b)のような“what kind of a”や“what kind of an”で始まる疑問文をwhat kind of {a/an}疑問文と呼ぶ。what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の相違については、これまでの研究では個別的な指摘にとどまってきたように思われる。本稿では、従来の研究成果を批判的に検証し、これまで詳しく論ぜられてこなかったwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文に用いられる名詞句の意味特性に着目しながら、両疑問文の意味と機能を明らかにする。

## 1. 先行研究

本節では、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の相違に関する従来の説明を批判的に検証する。

まず、学習英英辞典の中には、(3)の“*What kind of (a) job are you looking for?*”のように不定冠詞が随意的要素であるかのごとく用例を示すにとどまり、語法については述べていないものがある。次の(3)は*Cambridge Advanced Learner’s Dictionary*, Third Editionの“kind”の項の記述であるが、不定冠詞にカッコが付与された“*What kind of (a) job are you looking for?*”という用例を挙げるにとどまっている。

(3) kind

a group with similar characteristics, or a particular type

*What kind of (a) job are you looking for?*

(*Cambridge Advanced Learner's Dictionary*, Third Edition)

他方、文法書の中には、what kind of疑問文は正用であるが、what kind of {a/an}疑問文は誤用であるとして両疑問文を容認度の観点から峻別するものもある。(4)に示す文法書では、口語や文語といった発話レベルの相違にさえ言及されずにwhat kind of {a/an}疑問文は誤用であり、正しくはwhat kind of疑問文が用いられると明記されている。

(4) NO: *What kind of a car did he buy?*

YES: *What kind of car did he buy?*

(*REA's Handbook of English Grammar, Style, and Writing* (1992))

しかしながら、本稿の諸例が示すようにwhat kind of {a/an}疑問文は実際には広く用いられており、(4)は実際の言語事実を正しく反映していない厳しすぎる文法判断であるように思われる。このように従来の説明では、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の意味の相違や容認度については安定した記述が与えられていないことがわかる。

さて、手元のいくつかの英和辞典のkindの項にはwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の相違に関する説明を確認することができる。まず、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の相違が形式度の相違にあると記述する英和辞典がある。(5)では不定冠詞を伴うwhat kind of {a/an}疑問文はインフォーマルな表現であると説明されている。

(5) kind ofに続く名詞は通例無冠詞であるが、《インフォーマル》では不定冠詞を伴うことがある。What kind of (a) car do you drive? (きみはどんな型の車を運転していますか。) (『アンカーコズミカ英和辞典』)

同様に、(6)でも形式度の差異が着目され、不定冠詞を伴うwhat kind of {a/an}疑問文は略式表現であると説明されている。

(6) What kind of … どんな種類の…、どんな風な: What kind of fish is it?それはどんな種類の魚ですか/What kind of (《略式》 a) person is your fiancé?あなたの婚約者はどんな人ですか。 (『ライトハウス英和辞典 (第5版)』)

また、(7)のように発話レベルと含意の両面の差異から、what kind of {a/an}疑問文が口語的表現であることに加えて、「感情的な色彩を帯びる」場合に多く用いられると意味的相違を指摘する辞書もある。

(7) What kind of (a) man is he? (彼はどんな人ですか)

《★ ～ of に続く単数形の[C]にa(n)をつけるのは口語的で、感情的な色彩を帯びる場合に多い》  
(『新英和中辞典 (第7版)』)

(6)と同様に(7)の英和辞典は、what kind of {a/an}疑問文が形式張らない口語的表現形式であると説明した上でwhat kind of {a/an}疑問文の語用論的含みについても言及し、「感情的な色彩を帯びる場合」に多く用いられると記している。しかしながら、(7)の英和辞典ではどのような感情的な色彩を帯びるのかについての具体的な記述は与えられておらず、その詳細は不明である。また、後に本稿で観察するように「感情的な色彩」はwhat kind of {a/an}疑問文が派生する語用論的含みのひとつをとらえたものであり、基本的な意味ではないと考えられる。

一方、いくつかの英和辞典には、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の意味的相違に焦点を当てた記述が観察される。次に示す(8)は、不定冠詞を伴うwhat kind of {a/an}疑問文が略式表現であることを示すとともに、“What kind of (a) craftsman is he?”に対して「彼はどんな職種の職人ですか／どの程度の腕前 [信用度] の職人ですか」という二つの訳を併記している。

(8) What kind of (a) craftsman is he? 彼はどんな職種の職人ですか；どの程度の腕前 [信用度] の職人ですか／He did not know the ～ of trouble he was in. 彼は自分がどんなふうな面倒に陥っているのか知らなかった

《◆ kind of に続く名詞は通例無冠詞. 不定冠詞を伴うのは ((略式))》

(『ジーニアス英和大辞典』)

しかしながら、(8)の英和辞典は、この二つの訳に見られる意味の違いがwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文それぞれ別個に帰されるのか、あるいは両方に帰されるのかを明記しておらず不明瞭な記述となっている。これよりも踏み込んだ記述を与え、(8)のような二つの意味解釈をwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文それぞれに関連付けて説明する英和辞典がある。(9)の英和辞典は形式度に関する言及はないが、what kind of疑問文は種類を問い、what kind of {a/an}疑問文は特徴・能力などに視点を置いた尋ね方になると説明している。また、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文そ

それぞれに異なる対訳を具体的に与えて両者の意味を峻別している。

- (9) What kind of (a) …? は冠詞の有無で意味に差が出ることがある。無冠詞では種類を問い、冠詞をつけると特徴・能力などに視点を置いた尋ね方になる。(例)  
 What kind of doctor is he? (彼は何が専門の医者ですか) / What kind of a doctor is he? (彼はどんな [どの程度の] 医者ですか)  
 (『オーレックス英和辞典』)

(9)の英和辞典では、“What kind of doctor is he?”には「彼は何が専門の医者ですか」という意味が、“What kind of a doctor is he?”には「彼はどんな [どの程度の] 医者ですか」という意味が別個に与えられている。

さらに、(10a)の英和辞典の説明では、「What kind of AのAが☐名詞の場合は、Aは通例無冠詞となるが、不定冠詞が添えられた場合と意味の区別がされることがある」と記されている。具体的には、what kind of疑問文である“What kind of teacher is John?”は「(教科などの職種を尋ねて) ジョンは何の教師ですか」という意味を表すが、what kind of {a/an}疑問文である“What kind of a teacher is John?”はくだけた表現で「(能力・性質を尋ねて) ジョンはどんな教師ですか」という意味を表現するということが具体例とともに明示的に説明されている。ただし、(10a)の英和辞典はwhat kind of {a/an}疑問文である“What kind of a teacher is John?”に「ジョンはどんな教師ですか」という対訳を与えているにもかかわらず、同辞典の他箇所では(10b)のようにwhat kind of疑問文である“What kind of person is John?”に「ジョンってどんな人ですか(= What is John like?)」というジョンの性質を尋ねる対訳を与えており、統一的な説明となっていない。

- (10) a. What kind of AのAが☐名詞の場合は、Aは通例無冠詞となるが、不定冠詞が添えられた場合と意味の区別がされることがある。What kind of teacher is John? (教科などの職種を尋ねて) ジョンは何の教師ですか / What kind of a teacher is John?《くだけて》(能力・性質を尋ねて) ジョンはどんな教師ですか。  
 (『ウィズダム英和辞典 (第2版)』)
- b. What kind of person is John? He is respectable.「ジョンってどんな人ですか(= What is John like?)」「立派な人ですよ」What kind of car do you have? どのメーカーの車に乗っているの(= What make is your car?)  
 (『ウィズダム英和辞典 (第2版)』)

ここまで概観した辞典や文法書の説明をまとめれば、what kind of疑問文に対してwhat

kind of {a/an}疑問文は略式の口語表現形式であることにのみ言及する記述もあるが、さらに意味的側面から、what kind of疑問文が純粋に「種類」を問うのに対し、what kind of {a/an}疑問文は「能力」、「性質」、「特徴」を問う疑問文であるとして両者を峻別する記述も確認できる。

さらに従来の研究成果の検証を続けよう。伝統的な英語語法文法書である石橋他（編）(1966)で引き合いに出されているように、Curme (1931)は、「不定冠詞のつく形は今でも口語では普通であるが、文語では確立されていない」と述べ、Hook and Mathews (1956)は「kind ofの後に不定冠詞を使うことは余計なものとして非難されてきた。たいていの冠詞は省略される、しかし近代の、小説でない散文文学ではときどき実際に現れる」と記述し、いずれも発話レベルや文体上の相違に着目して説明するにとどまっております。what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の意味的相違や含意の違いについては言及していない。<sup>2</sup> 最近の記述文法書においても、Swan (2005)が“kind of”の項で(11a)の説明を、“sort of, kind of and type of”の項で(11b)の説明を与えている。しかし、Swan (2005)は(11a-b)のように“kind of”の後の冠詞a/anは通例省略されると指摘するのみで、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の意味や含意の相違については記していない。

(11) a. kind of etc

We usually leave out a/an after kind of, sort of, type of and similar expressions

*What kind of (a) person is she?* (Swan (2005))

b. sort of, kind of and type of

The article a/an is usually dropped after sort of, kind of and type of, but structures with articles are possible in an informal style.

*That's a funny sort of (a) car.*

*What sort of (a) bird is that?* (Swan (2005))

また、Carter and McCarthy (2006)も“sort of”、“kind of”、“type of”、“class of”について(12)のように「通例無冠詞であるが、くだけた口語ではa/anが用いられる場合がある」と指摘し、“What kind of a dad are you?”という例文を挙げているが、意味的側面については述べていない。

(12) With expressions such as sort of, kind of, type of, class of, category of singular count nouns normally occur without a/an:

*What type of shop do ...*

However, in informal spoken contexts, a/an may be used:



*What kind of a dad are you?*

*What sort of a bird was it that you saw?*

(Carter and McCarthy (2006))

このように、what kind of {a/an}疑問文は、従来の研究では「略式の口語表現形式である」、「文語では確立されていない」、あるいは「kind ofの後に不定冠詞を使うことは余計なものとして非難されてきた」としばしば指摘されていることがわかる。本稿では、紙幅の都合でwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の使用頻度の比較は行わないが、Brigham Young Universityで提供されているニュース雑誌*TIME*誌のコーパスデータベース (<http://corpus.byu.edu/time/>) を活用して文語体におけるwhat kind of {a/an}疑問文の使用状況の実態調査を行った。Brigham Young Universityで提供されている*TIME*誌のコーパスデータベース (<http://corpus.byu.edu/time/>) に基づくと、what kind of {a/an}疑問文の出現頻度を1920年代から2000年まで年代別に計量化して把握することができる。次は、what kind of {a/an}疑問文の年代別出現頻度を計量化して示した表である。

(13)

	Total	1920s	1930s	1940s	1950s	1960s	1970s	1980s	1990s	2000s
what kind of {a/an}	121	3	15	44	21	12	9	5	11	1

(*TIME*誌における“what kind of {a/an}”の年代別出現頻度 (<http://corpus.byu.edu/time/>に基づく))

(13)が示すように、what kind of {a/an}疑問文が*TIME*誌に用いられた総数は121例と決して多くはないように思われる。これは、従来の研究でしばしば指摘されるように、基本的に文語体で書かれているニュース雑誌*TIME*誌には略式の口語表現形式であるwhat kind of {a/an}疑問文が生じにくいということを裏付けているのかもしれない。また、what kind of {a/an}疑問文の年代別出現頻度を見ると1940年代をピークとしていることが確認できる。本稿では、その理由については立ち入らないことにするが、what kind of {a/an}疑問文の出現が1940年代をピークとしていることは興味深い。次節では、(13)のようなニュース雑誌のみならず、小説や随筆等の言語資料に広範に使用されているwhat kind of {a/an}疑問文を観察し、さまざまな興味深い特性を明らかにする。

本節で考察してきたように、従来の研究ではwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の相違について、形式度や発話レベルの相違と関連付けて言及するものや、意味的な相違と結びつけて説明するもの、さらには「感情的な色彩を帯びる」といった含意の付

帯の有無と関係付けて捉えるものなどさまざまな記述が与えられている。次節で明らかになるように、手元の言語資料を観察すると、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文はどちらも「種類」を問うという基本的な意味のみならず、「腕前」、「能力の程度」、「信頼度」といった意味を派生し、さらにはこれまで指摘されている「感情的な色彩を帯びる」場合も含めてさまざまな含意をしばしば付帯することが確認できる。

さて、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の含意の相違にまで言及する研究は必ずしも多くはない。しかしながら、いくつかの記述文法書においては、what kind of {a/an}疑問文に付随する含意がより明示的に記されていることは注目に値する。たとえば、記述文法書Wood (1962)は(14)のように、形式度の相違には言及せず、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の意味の相違を詳述している。

- (14) ‘What kind of doctor is he?’ (a doctor of medicine, science, philosophy?)  
‘What kind of a doctor is he?’ (what are his capabilities as a doctor?).  
‘What kind of holiday did you have?’ (camping, touring, by the seaside?):  
‘What kind of a holiday did you have?’ (how did you enjoy it?).

(Wood (1962))

(14)は、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の意味を対照し、“What kind of doctor is he?” は「彼は医学博士なのか、理学博士なのか、哲学博士なのか？」と問うが、“What kind of a doctor is he?” は「医師としての彼の能力はどれほどなのか？」と問うていること、また“What kind of holiday did you have?” は「キャンプをしたのか、旅行をしたのか、海辺で休日を過ごしたのか？」と問うが、“What kind of a holiday did you have?” は「どのように休日を楽しんだのか？」と問うていることを指摘している。(14)におけるWood (1962)の観察は、本稿で論ずるような両疑問文の含意を詳述するものではないが、両構文が派生する含意に着目しており評価できる。同様に、綿貫他 (2000)は(15)のように、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の意味の相違に言及し、これまでの辞書や文法書の記述を総合した説明を与えている。

- (15) What kind of car is it? (それはどんな車かね)

この文は文字どおり車種、つまりメーカーなどを尋ねることが多い。なお、くだけた言い方で、what [this, thatなどや形容詞] kind [sort] ofの後の名詞にa [an]をつけることもあるが、たとえば、What kind of a car is it?と言うと、「それはどの程度の車かね」という感じで、いい車かどうかを尋ねることが多い。

(綿貫他 (2000))



(15)では、「What kind of a car is it?と言うと、「それはどの程度の車かね」という感じで、いい車かどうかを尋ねることが多い」と記されており、<いい車かどうか>という含みをしばしば帯びることが示されている。また、安藤 (2005)ではwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の相違に関して(16)のような説明が与えられている。

(16) kind of a/ sort of a: kind / sort of に続く可算名詞にaを付けるのは、<略式>で、<格式体>の書き言葉では避けられる (Merriam-Websterの用例ファイルでは、書き言葉にはa/anを付けないのが大多数である)。…話し言葉では、aの有無による意味の違いが感じられる場合がある (LGEU)。

(i) What kind of job is that? (それは、どういう種類の仕事ですか)

(ii) What kind of a job is that? (それって、なんという仕事かね)

[恥ずかしくないのか]

(安藤 (2005))

安藤 (2005)は(16)のように “What kind of a job is that?” が<恥ずかしくないのか>という含意を伴うと指摘している。上記(16)の安藤 (2005) が依拠するGreenbaum and Whitcut (1988) (*Longman Guide to English Usage.*) の説明を(17)に示しておこう。

(17) The construction is certainly informal, but there may be a delicate distinction in speech between *What kind of job is that?* (ie what does the work entail?) and *What kind of a job is that?* (ie you should be ashamed of it!).

(Greenbaum and Whitcut (1988))

Greenbaum and Whitcut (1988) は “What kind of a job is that?” に対して “you should be ashamed of it!” (「その仕事をして恥ずかしいくないのか!」) という言い換えを与えている。Greenbaum and Whitcut (1988)、安藤 (2005) がwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の含意について言及している点は高く評価できる。しかし、こうした含意がwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文のどこから生ずるのかという問題については十分に考察されてこなかったように思われる。

次節では、実際の言語資料に生起するwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の用例を観察し、従来の研究では詳しく論ぜられてこなかった両疑問文に用いられる名詞句の意味特性と派生する含意との関連性について考察する。

## 2. what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の意味と含意

前節で確認したように、what kind of {a/an}疑問文はwhat kind of疑問文とは異なり、ある種の含意を伴うといくつかの先行研究で指摘されてきた。しかしながら、どのような含意が具体的に表出されるのか、what kind of疑問文からは表出されないのか、さらにはどのような場合に特別な含意が表出されるのかという点については十分な考察が行われてこなかった。本節では、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の使用を実際の談話で観察しながら、両疑問文で用いられる名詞句の意味特性にも着目しながらそうした含意の表出のメカニズムを考察する。

what kind of {a/an}疑問文の使用頻度が低いと指摘されることを反映するように、what kind of {a/an}疑問文は(13)のニュース雑誌のような形式張った文語体よりもむしろ小説や随筆等のくだけた文体の言語資料では非常に広範に使用されている。本節ではwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文が実際の談話でどのように使用されるのかを観察することにより、その使用上の特性を考察する。たしかに、従来、指摘されてきたようにwhat kind of {a/an}疑問文が純粹に種類や範疇を問うのではなく何らかの含意を伴って発話される用例は手元の資料でも確認できる。次に挙げる(18a-b)は、what kind of {a/an}疑問文が特別な含意を伴って発話されている。(18a-b)はどちらも、適切な治療ができなかったり、人命を救い出せなかった医師について、医師として当然持ち合わせているべき知識や技能がないことを問い質す場面での発話である。

(18) a. “*What kind of a doctor is he if he cannot even heal his own son?*”

(D. Drucker (2004), *Invent Radium or I'll Pull Your Hair*)

b. You didn't do anything to save him? You just let him die! *What kind of a doctor are you!* You killed him!

(M. King and D. O'Breien-King (2005), *The Feelings Inside*)

(18a)は、「彼は自分の子供の病気を治すことさえできないならば医者なんかじゃないだろう?」という文脈から明らかなようにwhat kind of {a/an}疑問文である“*What kind of a doctor is he if he cannot even heal his own son?*”はくそれでも医者か、医者の資格などないだろう!>といった含意を伴って発話されている。同様に、(18b)は、「あなたは彼を助けることを何もしなかったの?彼をただ見殺しにしたんだ!それでもあなたは医者なの?あなたが彼を殺したんだ!」という文脈から明らかなように、what kind of {a/an}疑問文である“*What kind of a doctor are you!*”はくそれでも医者か、医者とは呼べないだろう!>といった含意を伴って発話されている。(18b)のwhat kind of {a/an}疑問文が相手

を叱責する表現として使用されていることは、もはや疑問符ではなく感情を表す感嘆符を伴って発話されている形式面からも明らかである。次いで、(19a-b)の用例を観察しよう。

- (19) a. “But dad, *what kind of a teacher is he?* He never teaches! And now, he let us grade our own report cards. He isn’t a teacher, but a baby sitter!” I shouted.

(L. M. Minaudo (1991), *A Cry for Education: My Life with Cerebral Palsy*)

- b. “Why didn’t you report a sick animal?” Paul demanded. “*What kind of a nurse are you?*” “I didn’t know it was sick,” she said.

(A. Adam (1987), *Everglades Nurse*)

(19a)では、*what kind of* {a/an}疑問文である “*What kind of a teacher is he?*” が<あんな人は教師なんかじゃない>という含意を伴っての発話であることは、直後に続く発話 “*He isn’t a teacher, but a baby sitter!*” I shouted.” (「教師なんかじゃない。ベビーシッターじゃないか!」と叫んだ) から明白である。(19b)では、「なぜ病気の動物を知らせなかったのか?」とPaulが詰問している (“demanded”) 先行文脈から “*What kind of a nurse are you?*” という *what kind of* {a/an}疑問文が<それでも看護師か、看護師の資格などないだろう?>といった相手を問い質す含意を伴って発話されていることは自明である。

たしかに前節で確認したGreenbaum and Whitcut (1988)、その見解を継承する安藤 (2005)の指摘の通り、*what kind of* {a/an}疑問文が純粋に(まっすぐ)種類を問うのではなく何らかの含意を伴って発話される用例は上記の(18)-(19)の諸例が示すように存在する。しかしながら、三つの大きな問題点が存在する。第一に、たとえば、(16)-(17)では “*What kind of a job is that?*” (「それって、なんという仕事かね?」) には<恥ずかしくないのか>という含意があるとしばしば指摘される。しかしながら、手元の言語資料を観察すると、そうした含意の派生は*what kind of* {a/an}疑問文だけではなく、*what kind of*疑問文にも観察される。第二は、*what kind of* {a/an}疑問文が純粋に種類を問う例は数多く存在しており、英語の実際を反映した記述となっていないという点である。そして第三は、従来の研究では論ぜられてこなかった、*what kind of*疑問文と*what kind of* {a/an}疑問文に用いられる名詞句の意味特性と派生する含意との関連性についてである。順次、以下で考察を加えたい。

第一に、“*What kind of a job is that?*” (「それって、なんという仕事かね?」) には<恥ずかしくないのか>という含意があるとGreenbaum and Whitcut (1988)、安藤 (2005)で指摘されている。しかしながら、手元の言語資料を観察すると、そうした含意が生ずるのは*what kind of* {a/an}疑問文だけではない。たとえば、次例では、*what kind of* {a/an}疑問文ではなく、*what kind of*疑問文である “*What kind of job {is/was} that?*” が<恥ず

かしくないのか>、<ひどい仕事じゃないか>という含意を伴って発話されている。“What kind of job {is/was} that?” は、(20a)では災いに巻き込まれるようなことをしている相手を気遣っている場面で、(20b)では恐ろしい仕事をしてしまい自責の念に駆られている場面で、(20c)では子供がワニに食べられようとしている場面でそれぞれ発話されている。

(20) a. “No, please, I don’t want you to go through the trouble.”

“It’s my job.”

“What? *What kind of job is that?*”

“Ahem!” I snatched Mariana by the arm and yanked her to my side.

(M. E. Brady (2008), *My Mariana*)

b. “He shrugged and said, “Besides, Vanessa was my first client and she seduced me into believing everything she said. *What kind of job was that?* I did a terrible job and if she’d paid me, I would have given her money back.”

(A. Byars (2005), *A Seduction in Texas: A Jimmy Van Horn Novel*)

c. “*What kind of job is that?*” Adam called out. “That baby’s going to get eaten by an alligator!”

(L. Lowry (1999), *Zooman Sam*)

このように、(16)-(17)の説明とは異なり、実際にはwhat kind of {a/an}疑問文のみならずwhat kind of疑問文もまた特別な含意を帯びることがわかる。また、そもそも、(16)-(17)の説明とは異なり、特別な含意はwhat kind of {a/an}疑問文だけから派生するのではなく、what kind of疑問文からも生ずる可能性があるように思われる。たとえば、(21)では冒頭のwhat kind of疑問文 “What kind of job is it anyway?” (「とにかく、それってどういう仕事?」) という発話が<恥づかしくないのか>という含意を伴ってBeatriceに解釈されたため、対話における緩衝機能を持つ表現justを用いて “Just a part time job!” (「ただのパートタイムの仕事よ!」) と返答をしている。<sup>3</sup> しかし興味深いことに、続くTammyの発話 “I know that mom, but what kind?” (「それは知っているけど、どういう仕事?」) では “What kind of job is it anyway?” という疑問文の省略形である “what kind?” が繰り返し返されているが、今度は “A barmaid.” (「バーのホステス」) と具体的な職種がElviaによって返答されている。

(21) Tammy: *What kind of job is it anyway?*

Beatrice: Just a part time job!

Tammy: I know that mom, but what kind?

Elvia: (Tersely) A barmaid.

Beatrice: I'm no barmaid.

(D. J. Garland (2008), *Life's Reflections*)

次節ではさらに言語資料を観察しながら、特別な含意が生ずるのはwhat kind of {a/an}疑問文だけではないということを確認する。

さて、従来の研究に関する第二の問題点は、what kind of {a/an}疑問文が特別な含意を伴わず、純粋に種類を問う例は数多く存在しており、英語の実際を反映した記述となっていないという点である。たとえば、本稿第2節で確認したように、Wood (1962)ではwhat kind of {a/an}疑問文である“What kind of a doctor is he?”が“what are his capabilities as a doctor?”（「医師としての彼の能力はどれほどなのか？」）で書き換えられているし、『オーレックス和英辞典』では「冠詞をつけると特徴・能力などに視点を置いた尋ね方になる。[...] What kind of a doctor is he? (彼はどんな [どの程度の] 医者ですか)」と説明され、what kind of {a/an}疑問文が純粋に種類を問わないかのごとく記述されることがあった。しかしながら、こうした従来の説明とは異なり、what kind of {a/an}疑問文が特別な含意を伴わず、純粋に種類を尋ねる用例が実際の言語資料に広く観察される。次の(22a-g)では、what kind of {a/an}疑問文の名詞句に“a doctor”が用いられている用例であるが、その応答から、特別な含意を伴わず純粋に医師の専門分野を尋ねるwhat kind of {a/an}疑問文であると見てよい。“What kind of a doctor”から始まる疑問文に対して、(22a-f)では“a counselor”（「カウンセラー」）、“a family physician”（「ホームドクター」）、“an MD, internist”（「内科専門医」）、“a psychiatrist”（「精神科医」）、“Internist”（「内科専門医」）、“All kinds”（「(頭部、脚部、腹部、心臓も含めて) あらゆる分野の専門医」）、“No kind, really. I'm training in neurosurgery.”（「実のところ、専門医ではないのです。神経外科の研修医なのです」）とそれぞれ答えられていることから明らかである。

(22) a. “*What kind of a doctor is he?*” “He’s a counselor.” “A shrink,” the other girl said.  
(A. Neiderman (1997), *The Dark*)

b. “*What kind of a doctor is he?*” his mother asked. “He is a family physician.” His father nodded at his wife. “That means a GP, Sylvia.”

(R. C. Hirschhorn (1983), *A Pride of Healers*)

c. T: *What kind of a doctor is he?*

J: He’s an MD, internist.

(M. J. Horowitz (1992), *Stress Response Syndromes*)

- d. “Yeah, I know. Someone said he’s a doctor. *What kind of a doctor is he?* ”  
“Professor Sinclair is a psychiatrist.”  
(L. Anderson (1991), *The Reluctant Heir*)
- e. “*What kind of a doctor is he?* ” “Internist.”  
(H. N. Mandell (1987), *When Doctors Get Sick*)
- f. “Tell me, Nick, *what kind of a doctor are you?* Head? Foot? Stomach? Heart?  
A professor maybe?” “All kinds,” I told her.  
(L. Sanders (1984), *Tomorrow File*)
- g. “*What kind of a doctor are you?* ” “No kind, really. I’m training in  
neurosurgery.” (D. Tobey (2010), *The Faculty Club*)

また、同様の用例は “a doctor” 以外の名詞句にも観察される。たとえば、(23a-d)は “a job” が用いられている用例であるが、その応答から、特別な含意を伴わず純粋に職種を尋ねる what kind of {a/an} 疑問文であると考えられる。(23a-d)は what kind of {a/an} 疑問文に対して、それぞれ “a stenographic job” (「速記」)、“one that I can work on Friday nights and all day Saturday” (「金曜日の夜と土曜日終日働くことができる職」)、“Anything that I like and that pays” (「私が気に入り給料がもらえるどんな職でも」)、“Any kind of job” (「どんな職でも」) と純粋に職種が答えられている。

- (23) a. “*But what kind of a job, Anice?* ” “Oh, a stenographic job, Cousin Phyllis. I’m an expert stenographer,” answered Anice eagerly.  
(P. Lindsay (2009), *No Nice Girl*)
- b. “*What kind of a job are you looking for, Mr. Jenkins?* ” “I am looking for one that I can work on Friday nights and all day Saturday. [...]”  
(T. Brooks (2002), *Nothing More Than Just Friends*)
- c. “*What kind of a job are you looking for?* ” he asked me after offering me a drink. “Anything that I like and that pays.”  
(J. Rechy (1988), *City of Night*)
- d. “*What kind of a job are you looking for?* ” “Any kind of job. I don’t care what it is.”  
(L. Balu (1997), *Believe in Your Dreams, Not in Your Fears*)

また、次に挙げる(24a-b)では what kind of {a/an} 疑問文の名詞句に “a car” が用いられて、それぞれ純粋に車種が問われていることが “59 Ford, black, two door coupe.” (「59年式フォード、黒、2ドアクーペ」)、“It’s a 1957 Porsche speedster.” (「1957年式ポルシェスピード



ドマスター』) という相手の返答から確認できるし、(24c)ではwhat kind of {a/an}疑問文に先行する文脈で“Chevy, Ford, Olds, Toyota, Mercedes” (「シボレー、フォード、オールズ、トヨタ、メルセデス」) という車種・メーカーの選択肢が示されていることから明らかである。

- (24) a. “*What kind of a car was it?*” “59 Ford, black, two door coupe.”  
(T. Walsh (2003), *The Piggy Bank Murder*)
- b. “*What kind of a car is this?*” “It’s a 1957 Porsche speedster.”  
(N. Baia (2004), *In Search of the Leopard*)
- c. “Chevy, Ford, Olds, Toyota, Mercedes — *what kind of a car?*”  
(H. Graham (2004), *Dead on the Dance Floor*)

また、次例は冒頭のwhat kind of {a/an}疑問文 “What kind of a car is it?” から始まり、複数の質問を経て質問の最後は “Is it reliable?” (「その車は信頼できるか?」) と結ばれている。第2節で観察したように、綿貫他 (2000)は「What kind of a car is it?と言うと、「それはどの程度の車かね」という感じで、いい車かどうかを尋ねることが多い」と説明している。(25)の例も、一見すると車種やメーカーではなく、どの程度の車なのかを問う疑問文であるように思われるかもしれない。しかしながら、(25)に見られる複数の質問は「メーカー、型式、外車／国産車、普通車／小型車、高級車、セダン／スポーツモデル、性能」といった客観的な信頼性を問うており、聞き手の個人的な感想として「どの程度の車か」、「いい車かどうか」を尋ねているわけではない。

- (25) *What kind of a car is it? What make and model is it? Is it a foreign car or domestic? Is it full-size or compact? Is it a luxury car? Is it a sedan or a sports model? Does your car perform well? Is it reliable?*  
(B. J. G. Hateley (1985), *Telling Your Story, Exploring Your Faith: Writing Your Life Story for Personal Insight and Spiritual Growth*)

次は “a dog”、“a bike” を含む例である。(26a-b)のwhat kind of {a/an}疑問文は、それぞれの応答から、いずれも特別な含意を伴って発話されているのではなく、純粹に犬や自転車の種類が問われていると考えられる。(26a)では “What kind of a dog is he, anyway?” (「いずれにしても、どんな種類の犬ですか?」) というwhat kind of {a/an}疑問文に対して “Part collie and part something else.” (「コリー犬と他の犬が混ざっているんです」) と純粹に犬種が答えられているし、(26b)では “What kind of a bike is that?” (「それはどんな自転車

車ですか?」) というwhat kind of {a/an}疑問文に対して “That’s a ten-speed. A Motobecane. A French-made bicycle. A good one too. I can go on a hundred miles in a day on that.” (「10スピード、モトベカンという名前、フランス製。性能もよく、1日に100マイル走行できる」) と純粹にバイクの車種情報が提示されている。

- (26) a. ‘*What kind of a dog is he, anyway?*’ ‘Part collie and part something else. [...]’  
(J. Bingham (1987), *My Name Is Michael Sibley*)
- b. “*What kind of a bike is that?*” “That’s a ten-speed. A Motobecane. A French-made bicycle. A good one too. I can go on a hundred miles in a day on that.”  
(D. Small (2001), *The River in Winter*)

これらの諸例が示すように、what kind of {a/an}疑問文が特別な含意を伴わずに純粹に種類を問う用例は幅広く使用されており、英語の實際を反映した記述となっていないという点が確認できる。

従来の研究の第三の問題は、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文が派生する含意と使用される名詞句との関連性について十分な考察が加えられてこなかった点である。言い換えれば、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の話し手が、ある種の名詞句を使用して特別な含意を積極的に伝達する言語現象については注目されてこなかったように思われる。これまでの研究でwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文が取り上げられるとき、“car”、“doctor”、“job”といったさまざまな具体的な種類や区分の存在が前提とされる名詞句が中心であったように思われる。しかしながら、こうした名詞句とは異なり、具体的な種類や区分が容易には想定されないような名詞句がwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文で積極的に用いられ、特別な含意を派生する用例が手元の言語資料に多数観察される。what kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文で用いられて特別な含意を派生しやすい名詞句には二つのタイプがあると考えられる。

特別な含意を派生しやすい一つのタイプの名詞句は、“idiot”、“ass”、“asshole”のように発話に先立って話題中の人物を「ばか者、愚か者、間抜け」と認定する名詞句である。<sup>4</sup>

次に示すような、“idiot”、“ass”、“asshole” (「ばか者、愚か者、間抜け」) といった名詞句を伴うwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文は、愚行、愚挙、醜行をののしったり、侮ってあざけったり、卑しむ意識下で発話されている。(27a)ではwhat kind of疑問文に名詞句“an asshole”が、(27b-c)ではwhat kind of {a/an}疑問文に“an ass”や“an idiot”が用いられている例である。

- (27) a. “*What kind of asshole gives a six-year-old fireworks?*” “I don’t know. But that’s

the story I heard. And I heard it from a buddy at school who said he heard it from one of the teachers.” (T. Coyne (2002), *A Gentleman's Game*)

b. “*What kind of an ass would I be,*” he says, “if I didn’t try to give back something that promotes the plaintiff’s philosophy.” (TIME, Jan. 11, 1988)

c. *What kind of an idiot are you?* If you’re not taking care of yourself, you deserve to have a heart attack!

(M. Guarneri (2006), *The Heart Speaks: A Cardiologist Reveals the Secret Language of Healing*)

(27a)のwhat kind of疑問文は「どこのばか者が6歳の子供に花火をあげるのか?」という意味を、(27b-c)のwhat kind of {a/an}疑問文は「俺はなんて愚か者なんだろうか?」、「おまえはなんて間抜けなんだ?」という意味をそれぞれ表している。

特別な含意を派生しやすい二つ目のタイプの名詞句は、“mother” (「母親」)、“father” (「父親」)のように社会的な範疇区分や種類を表す名詞句である。このタイプの名詞句には他にも“a Christian” (「キリスト教信者」)のように宗教的な範疇区分や“man” (「男性」)、“person” (「人間」)のように生物的な範疇区分を表すものもある。次例(28)では、名詞句“mother”がwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文で用いられている。(28)は、“mother” (「母親」)という名詞句が表す範疇区分に話題中の人物が属しているはずであるのに、実際の言動から母親という範疇区分のどこに入るのかを話し手には認めることができず、母親としての資質、資格があるのか、いやあるまいという含みを伝え、反語的表現としてそれぞれの疑問文が機能している。

(28) a. *What kind of mother gives up her child and disappears without a word? What kind of mother surrenders her child out of love? What kind of mother is able to part from her child?*

(B. J. Lifton (1995), *Journey of the Adopted Self: A Quest for Wholeness*)

b. *What kind of a mother would give her own baby away, after all? What kind of a mother would leave her children with an abusive husband?*

(L. A. Babb (1999), *Ethics in American Adoption*)

(28a)のwhat kind of疑問文は「どの母親が自分の子を見捨てて一言も告げずに失踪するのか? どの母親が自分の子供への愛を放棄するのか? どの母親が自分の子供と関係を絶つのか?」という意味を表す。また、(28b)のwhat kind of {a/an}疑問文は「どの母親が自分自身の子供を裏切るのだろうか? どの母親が自分の子供を、虐待する夫のもとに残すのだから」

うか？」という意味を表す。このタイプも(27)と類似して特別な含意を伴って発話されているが、(27)のような発話に先立って話題中の人物が“idiot”、“ass”、“asshole”（「ばか者、愚か者、間抜け」）といった名詞句が表す範疇区分であることを認定する疑問文とは含意の派生メカニズムが異なる。(28)のタイプの名詞句を用いるwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文は、名詞句が表す範疇区分や種類に話題中の人物が属しているはずであるのに、実際の言動からその範疇区分のどこに入るのかを話し手には認めることができず、その資質、資格があるのか、いやあるまいという含みを伝え、反語的表現として機能する。このタイプの名詞句は“idiot”、“ass”、“asshole”（「ばか者、愚か者、間抜け」）のように、直接的に愚行、愚挙、醜行を認定してののしったり、侮ってあざけったりする目的で使用されるわけではない。換言すれば、(27)の“mother”のような名詞句を用いるwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文は、話題中の人物に名詞句が表現する「資格」や「資質」がないことを確認しながら、叱責、問責、非難している。

本節では、特別な含意を生ずるのはwhat kind of {a/an}疑問文に限定されず、what kind of疑問文にも認められることを確認した。次に、what kind of {a/an}疑問文が特別な含意を伴わずに純粹に種類を問う例も観察した。併せて、what kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文が特別な含意を派生しやすい名詞句を積極的に使用する言語現象についても指摘した。

次節では、こうした特別な含意を派生しやすい二つのタイプの名詞句を伴うwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文を手元の言語資料に基づいて観察・分析することにする。

### 3. 特別な含意を発生する二つのタイプの名詞句

前節では、what kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文に使用される名詞句には特別な含意を派生しやすい二つのタイプの名詞句があることを指摘した。本節では、従来の研究では取り上げてこなかった二つのタイプの名詞句の意味特性に着目しながら、what kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文が派生する含意について考察する。

まず、“idiot”、“ass”、“asshole”のように話題中の人物を発話に先立って「ばか者、愚か者、間抜け」と認定するタイプの名詞句が使用されるwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文を観察しよう。このような話し手の価値判断や感情を表すタイプの名詞句を伴うwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文は、愚行、愚挙、醜行を直接的にののしったり、侮ってあざけったり、卑しむ表現として発話される。前節の(27)に、下記の用例を類例として追記したい。下記では“an ass”、“an asshole”（「ばか者、愚か者」）であると話題中の人物を直接認定した上でwhat kind of {a/an}疑問文が発話されている。

- (29) a. “*What kind of an ass are you? Whoever heard of anybody not betting when they had a thing like that sewed up?*” (Dashiell Hammett (1992), *Red Harvest*)  
 b. I heard an angry voice. “Jesus Christ, *what kind of an asshole are you? President Kennedy was shot and killed, and you say great, good riddance?*”  
 (W. E. Endert (2000), *The Timbercruisers*)

次例では、感情的な含意を伴う名詞句 “a nut” (「ばか」) を伴う what kind of {a/an} 疑問文が用いられ、「とにかく彼はなんて馬鹿なんだ?」と侮辱的な発話となっている。

- (30) “No need to. He comes here to pray.” “Pray! That’s sick. *What kind of a nut is he anyway?*” “No nut. I think he thinks he’s alone. [...]”  
 (G. P. Geophegan (2007), *Noname*)

次例でも、感情的な含意を伴う名詞句 “an idiot” (「ばか、間抜け」) を用いた what kind of {a/an} 疑問文が発話されている。特に(31c)では、“She demanded of herself” (「彼女は自分自身に問い質した」) という後続文脈から、自責の念に駆られて “And what kind of an idiot was she?” (「自分はなんて馬鹿だったのか?」) が発話されていることが明らかである。

- (31) a. One of the members of the Joint Chiefs exploded with: “*What kind of an idiot are you, getting us all up in the middle of the night, wasting our time with some nonsense about ‘happiness outbreaks?’*”  
 (B. Whitehouse (2009), *Tales from the Sufi Path*)  
 b. “*What kind of an idiot are you, Pyke? Don’t you remember Thorna’s threat?* [...]”  
 (H. J. Stellian (2003), *The King of Heart*)  
 c. And *what kind of an idiot was she?* She demanded of herself, hurrying to keep up with his wild dash along the streets. (C. V. Allen (1988), *Dream Train*)

また、次例では、what kind of {a/an} 疑問文が3回連続して感嘆符を伴って発話されている。それぞれ “an idiot” (「ばか」)、“an imbecile” (「まぬけ」)、“an ignoramus” (「無学者」) という名詞句が用いられて、話し手が相手の愚行を激しくなじっていることがわかる。

- (32) *What kind of an idiot are you! What kind of an imbecile are you! What kind of an ignoramus are you!* Who ever heard of a moron who comes outside out-of-

doors with an umbrella which has in it nothing but holes when you open it up!

(G. Lish (1989), *Extravaganza*)

次例では、what kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文に“beast”という名詞句が用いられ、話し手が相手を“beast”（「けだもの」）と認定して罵倒している。<sup>5</sup>

- (33) a. It gouged out a chunk of flesh, and blood ran down his leg, but the bullet had not seriously wounded him. Clayton roared, “*What kind of a beast are you? You don’t kill a man for that!*”

(P. J. Farmer, M. Resnick, W. S. Eckert (2006), *Tarzan Alive: A Definitive Biography of Lord Greystoke*)

- b. “*What kind of beast are you to give away your own child as if she were some kind of dog?*”

(T. Williams (2001), *The Devil’s Mouth*)

さらに観察を続けよう。(34a)では“a chickenshit war hero”（「臆病な軍神」）という感情的含みを伴う名詞句が用いられて“*What kind of a chickenshit war hero are you, anyway, ambushing me from behind?*”（「いずれにせよ、俺を背後から待ち伏せ攻撃するとはどんな臆病な軍神なんだ？」）というwhat kind of {a/an}疑問文が発話されている。(34b-c)も“a chickenshit”（「臆病者、小心者」）、“a chickenshit question”（「つまらない質問」）という感情的含みを伴う名詞句が用いられている類例である。

- (34) a. *What kind of a chickenshit war hero are you, anyway, ambushing me from behind?*

(G. C. Chesbro (1999), *The Language of Cannibals*)

- b. “*What kind of a chickenshit is he?*”

(D. Cash (2004), *Since You’re Leaving Anyway, Take Out the Trash*)

- c. “*What kind of a chickenshit question is that anyway?*” “Mr. Carson, I’m only trying to —”

(D. Belsky (1993), *Live from New York*)

次に挙げる例においても、名詞句に“a chicken-heart”、“a coward”が用いられており、相手を臆病者とあざける表現が用いられている。

- (35) a. *What kind of a chicken-heart are you anyway?*

(N. A. Ashford (1976), *Crisis in the Workplace*)



- b. “*What kind of a coward are you?*” “I’m not —”

(L. Jackson (2008), *Left to Die*)

また、次例では “a timid, dried-up, weevily fellow” (「臆病で、しなびていて、ゾウムシのついたようなやつ」)、 “a yellow belly” (「臆病者」)、 “a sly question” (「ずるい質問」) という侮辱的な意味を直接的に表現する名詞句が用いられている。

- (36) a. *What kind of a timid, dried-up, weevily fellow were you?*

(J. Mitchell (1993), *Up in the Old Hotel, and Other Stories*)

- b. “*What kind of a yellow belly are you, goddamn it, Lazlo?*”

(R. Hayes (1992), *Mountain Man’s Fury*)

- c. *What kind of a sly question is that?*

(S. McBratney (1998), *The Chieftain’s Daughter*)

また、下記の例においても話し手の苛立ちやあざけりの感情的含みを表す形容詞 “stupid” (「愚かな、ばかげた」) が名詞 “name”、“question” を直接修飾している。

- (37) a. “Cassidy, your pen pal is Winky Parker.” “Winky?” I frown. “*What kind of a stupid name is that?*”

(H. V. Frederick (2009), *Dear Pen Pal*)

- b. “Nabs” was Mac’s name for the dog. Originally he’d suggested “Zubengelgenubi.” “*What kind of a stupid name is that?*” Elizabeth had asked. “It’s the name of a star.” “I don’t believe you. It sounds more like the name of some loathsome disease.” “No, it’s a star all right—I got it from yesterday’s crossword puzzle, [...]”

(P. Innes (2008), *The Man with the Grasshopper Mind*)

- c. “Are you sure you want be in the lead canoe?” he asked.

Will gave him a funny look. “*What kind of a stupid question is that?* Of course I do.”

(K. Warkentin and R. Adair (2004), *Terror in Hawk’s Village*)

さて、次に第2のタイプの名詞句を伴う what kind of 疑問文と what kind of {a/an} 疑問文の用例を確認しよう。前節で示したように、この第2のタイプは “mother” のような名詞句であり、what kind of 疑問文や what kind of {a/an} 疑問文で用いられることにより、反語的表現で名詞句が表現する「資格」や「資質」が話題中の人物にないことを積極的に表現し、叱責、問責、非難する機能を発揮する。上で見た第一のタイプの名詞句 “idiot”、

“ass”、“asshole”（「ばか者、愚か者、間抜け」）を用いたwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文とは異なり、直接的に愚行、愚挙、醜行を認定してののしったり、侮ってあざけているわけではない点に注意する必要がある。この第2のタイプの名詞句を活用するwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文は、話題中の人物が名詞句の範疇区分や種類に社会的、生物的に属しているはずであるのに、名詞句の表す範疇区分に共通して認められる性質や属性を有していないという話し手の意識下で発話されると考えられる。たとえば、(38)は、弁護士が相手の女性を叱責する場面で名詞句“mother”を伴うwhat kind of {a/an}疑問文が発話されている。(38)では、相手の女性が“mother”（「母親」）という範疇区分に共通して認められる性質を有していない、つまり「母親としての資質や資格」に欠けていることを弁護士が相手に確認しながら、叱責、問責、非難している。(38)では、“What kind of a mother”から始まる疑問文が3回連続して発話されているが、最後の一文に“The attack went on for hours.”（「非難は数時間続いた」）と締めくくられているように、相手が母親失格であることを責め立てる文脈でwhat kind of {a/an}疑問文が発話されている点にも注意されたい。

- (38) When Sue had told as much of the story as the judge would allow, Roger's lawyer started grilling her. He said, “*What kind of a mother are you? What kind of a mother would invent such a preposterous story?* [...] *What kind of a mother?*”  
The attack went on for hours.

(J. E. B. Myers (1997), *A Mother's Nightmare-Incest*)

次のような用例も観察しよう。(39a-b)はwhat kind of {a/an}疑問文が連続する生起例であるが、興味深いことに(39a)では、母親としての資格のみならず、そもそも人間としての資格があるのかを反語的に問い質している。

- (39) a. [...] not important, *what kind of a mother was she? What kind of a person was she?* No matter what happened now, she would always have [...].

(I. Sundaresan (2003), *The Feast of Roses*)

- b. *What kind of a mother would allow her own child, her only child, to be harmed by a man?* The revelation hurt. Really hurt. [...] *What kind of a mother was she?* He had to get out of there. Away from her and that bully, Collin.

(A. Pfitzenmaier (2008), *Cheating Fate*)

次の例においては、what kind of疑問文に名詞句“father”が用いられて相手に「父親としての資質や資格」に問題があることを話し手が難詰している。(40a-b)の場面では、どちらも子供が自分の父親に対して“What kind of father are you?”と発話しており、相手が自分の「父親」であるという事実は知りながら、“father”（「父親」）の範疇区分に共通して認められる性質を有していないことを確認し、「父親としての資質や資格」に欠けていることを非難している。(40a)では、“You will not disobey me. I am your father.”（「おまえは私の言いつけにそむけないんだよ。私はお前の父親だからな。」）という自分の父親に娘が反抗して「どんな父親ならあんな人でなしに自分の娘を差し出すの？もし父親だとしたら、私の人生の中でいったいどこにいたのよ？」と、名詞句“father”を用いたwhat kind of疑問文を発話している。(40b)のwhat kind of疑問文においても名詞句“father”が用いられ、“I’m still your father.”（「それでも私はお前の父親だ」）という父親に対して子供が“No, you’re not. What kind of father are you?”（「いいえ、私の父親ではありません。一体、あなたはどんな父親なんですか？」）と発話しながら自分の父親に立ち向かっていることがわかる。

- (40) a. “You will not disobey me. I am your father.” “My father ... *what kind of father are you? What kind of father would give his daughter to such an animal?* If you are my father, where have you been all my life?”

(S. Kay (2009), *Haunted Secrets*)

- b. “I understand you’re mad at me, but I’m still your father.” “No, you’re not. *What kind of father are you?*” I narrowed my eyes and returned the heat. “I’m the father that raised you and watched over you.” “So that’s your license to lie?” “I did what’s best for you.”

(Z. Loriez (2005), *Nothing Good Lasts Forever: Then and Now*)

さらに、次例においても埋め込み文の形式であるが“what kind of a”から始まる4つの疑問文が連続して生じている。(41)では冒頭の“I felt guilty about everything”（「私は何につけても良心に恥じるころがあった」）から、話し手が罪悪感や後ろめたさを感じている様子がわかる。その後のwhat kind of {a/an}疑問文では、名詞句“a husband”、“a father”、“a Christian”、“a person”が用いられ、夫として、父親として、キリスト教信者として、人間として自分がふさわしくなかったことが具体的事由とともに列挙されている。

- (41) I felt guilty about everything: *what kind of a husband I was, what kind of a father I was, what kind of a Christian I was, and what kind of a person I*

*enjoyed being when no one was looking.*

(K. Clendenon (2010), *Surrender of Sovereignty*)

また、次例では話し手が名詞句 “a child”、“a daughter” を含む what kind of {a/an} 疑問文を連続して使用し、自分の娘の娘らしさの欠如を問題視しながら叱責している。

(42) JEFF: *What kind of a child are we rearing here? What kind of a daughter are you anyway? What kind of a daughter are you?*

CASSIE: Well, I'm not your daughter!

JEFF: [Losing control] I'll show you whose daughter you are!

CASSIE: [Cries] No, Jeff, please don't hit me again!

LINDA: Jeff!

(R. E. Jackson (1981), *Rag Dolls*)

次例においては、名詞句 “a son” を含む what kind of {a/an} 疑問文が連続して用いられて、自分の父親を忘れてしまう息子を「息子」と呼べるのか、いや呼べないだろうということが積極的に表現されている。

(43) “*What kind of a son do I have? What kind of a son is it that forgets his father?*”

“He hasn't forgotten you; he's worried about you: that's why I asked to see you,” I managed to interpose.

(T. King (2010), *Gregor Piatigorsky: The Life and Career of the Virtuoso Cellist*)

次例においても、親が息子を叱責する場面で名詞句 “a son”、“a family man” を含む what kind of {a/an} 疑問文が連続して用いられており、自分の妻を殴る息子を「息子」や「所帯持ちの男」と呼べるのか、いや呼べないだろうということが伝えられている。

(44) Tension between a man's wife and his mother pervades Russian folklore, as in the often quoted complaint, “*What kind of a son are you, what kind of a family man?*” You don't beat your young wife. [...]”

(P. Friedrich, A. S. Dil (1979), *Language, Context, and the Imagination*)

次例では、名詞句 “a man” を含む what kind of {a/an} 疑問文が用いられている。(45a-c) においても話し手は “a man” (「男」) の種類やタイプを純粹に尋ねているのではなく、

<それでも一人前の男なのか>、<なんという人でなしだ>、<恩義や人情があるのか>という含みを込めて相手が男や人としての資質や資格が欠如していることを確認しながら、叱責している。(45a)では、名詞句“a man”を含むwhat kind of {a/an}疑問文が感嘆符を伴っており、「ここはSandraの家だ。女性を彼女の持ち家から追い出すなんて、お前はなんて男だ!」と話し手が相手を叱責している。(45b)では「女性にそんな質問をするとはなんて男だ?」と相手が男らしくない行為をしていることを、(45c)では「社会に反する態度で享楽にふけるとは、なんという人でなしだ?」と人の道を外れた相手の行為を話し手が非難している。

- (45) a. “It’s Sandra’s home. *What kind of a man are you, locking a lady out of her own home!*” (A. Ingham (2010), *Lazy Friends*)  
 b. “*What kind of a man are you to ask a lady a question like that?*” (V. Villaseñor (2003), *Walking Stars: Stories of Magic and Power*)  
 c. *What kind of a man are you, indulging in this immoral behavior? You betrayed your Lord, your God. You betrayed your dear loving wife, the keeper of the sanctity of your marriage.* (R. Geaney (2001), *The Honest Liar*)

また、次例では2回連続する名詞句“a man”を含むwhat kind of {a/an}疑問文を受けた返答が観察される。(46)では、“What kind of a man are you?”(「お前は男か?」)に対して“More of a man than you are, nigger!”(「お前なんかよりは男らしさがあるさ」)ときわめて軽蔑的な表現とともに吐き捨てるような返答がされている。

- (46) “My God,” Louis groaned, “*what kind of a man are you?*” Ringo didn’t answer. Louis crouched down next to him and stared ... “*What kind of a man are you?*” “More of a man than you are, nigger!,” Ringo spat back, and went for his pistol (R. Wilhelmsen (2001), *Buckskin and Satin*)

これまでは否定的な感情的含みを伴う名詞句を中心に観察してきたが、肯定的な含意を伴う名詞句もwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文に生ずることを確認しておきたい。次例の(47a-b)では、知恵者であることを表現する名詞句“wise man”がwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文でそれぞれ使用されている。(47a)では、話し手が「こんなにたくさんの贈り物を持って挨拶に来てくださるとは、あなたはどんな賢人なのか?」と発話し、名詞句“Wise man”が表す範疇区分を超えるほど聞き手である客人が優れていることを褒める世辞として表現している。また、(47b)では、「敵の懐に入り込むとは、

どんな賢人なのか？」と話し手は相手が名詞句 “a wise man” の範疇区分に収まらないほどの策士であることを表している。

- (47) a. Tillbert Jacobson praised his guest, “*What kind of Wise Man from the East are you actually, coming to greet me with such huge gifts?*”  
(E. K. Numinen (2007), *Bermuda Triangle*)
- b. *What kind of a wise man are you, that you yourself crept into the Misnagid's paws?*  
(J. Gordin, R. Gay, S. Glazer (2007), *The Jewish King Lear*)

本節では、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文に生ずる名詞句には特別な含意を派生しやすい二つのタイプがあることを明らかにした。“idiot” のようなタイプの名詞句を伴うwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文は、直接的に愚行、愚拳、醜行を認定してのしったり、侮ってあざける含意を派生する。一方、“mother” のようなタイプの名詞句を伴うwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文は反語的機能を持ち、名詞句の表す範疇区分に共通して認められる性質や属性を話題中の人物が有していないという話し手の意識下で発話されるため叱責や問責の態度表出といった機能、ときには世辞や褒詞の表明といった機能も帯びることを確認した。

#### 4. まとめ

本稿の冒頭に挙げた下記の例に立ち返ってみよう。(48)-(49)のwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文はどちらも名詞句 “dinosaur” が使用されている。しかしながら、名詞句 “dinosaur” は(48)では「恐竜」という意味を表すのに対し、(49)では「時代遅れのしろもの」という意味を表す。そのため、(48)とは違い、(49)のwhat kind of {a/an}疑問文は<それはなんて時代の風潮や流行に合わないものなんだ?>というあきれや驚きといった特別な含みを伴って解釈されるという違いがある。

- (48)=(1) “Hey, *what kind of dinosaur is that?*” Tweeker was curious to know if it was going to try and have him for lunch. “According to my records that animal is a Brontosaurus. You will be pleased to know that it is a plant eating dinosaur.”
- (49)=(2a) John Alexander, manager of Houlihan's in Long Beach, Calif., notes that clients collect the plastic creatures and “often hang them from their glasses or from their ears.” Why so? Possibly the desperate need for new conversational gambits in singles bars. “*What kind of a dinosaur is that?*”



sure beats “What’s your sign?”

本稿では、こうした含意派生の有無はwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文のどちらにも認められることから、従来の研究での説明のように両疑問文の違いに単純に帰されるべき問題ではないことを明らかにした。また、これまで詳しく論ぜられてこなかった点として、what kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文に生起する名詞句には特別な含みを生じやすい二つのタイプがあることを指摘し、それぞれのタイプの名詞句を伴うwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文の意味と機能的特性について実際の言語資料の観察と分析を通して考察した。

## 注

\* 本研究は、平成21-23年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号21520502「日英語の名詞節化形式の意味と談話機能の派生メカニズムに関する理論的・実証的研究」（研究代表者：大竹芳夫）の研究成果の一部である。

1. (i)のような複数可算名詞を従えるために不定冠詞を伴わない“what kind of”で始まる疑問文がある。本稿では、このような複数可算名詞を伴う疑問文とwhat kind of疑問文やwhat kind of {a/an}疑問文との関連性については紙幅の都合上取り上げないこととする。

(i) Q: *What kind of dinosaurs are Baby Bob and B.J.?*

A: They are protoceratops, which is a very early form of dinosaur. That means “before horns.” BJ looks a lot like a Triceritops, but he doesn’t have the horn.

([http://www.enquirer.com/editions/2000/04/18/loc\\_a\\_conversation\\_with.html](http://www.enquirer.com/editions/2000/04/18/loc_a_conversation_with.html))

また、(ii)のmusicのような不可算名詞を従えるために不定冠詞を必然的に伴わないwhat kind of疑問文についても本稿の議論の対象とはしない。

(ii) *What kind of music do you like?*

(*TIME*, Oct. 13, 2003)

2. 石橋他（編）（1966）はCurme（1931）やHook and Mathews（1956）のwhat kind of疑問文とwhat kind of {a/an}疑問文に関する発話レベルや形式度の違いについての記述を引き合いに出しているが、両疑問文の意味や含意の相違について詳しく分析してはいない。

3. Lee（1991）は、justには、話し手が相手の主張や提案を否定したり断ったりする際に対人関係を良好に保つための緩衝機能があると説明している。

4. “ass”を例にとれば、*Oxford Dictionary of English*. Second Edition.には下記のような定義が与えられており、侮辱的な表現であることが確認できる。

(i) ass: <Brit.> <informal> a foolish or stupid person

(*Oxford Dictionary of English*. Second Edition.)

5. “beast”（「けだもの」）が感情的含みを伴う名詞であることは*Oxford Dictionary of English*. Second

Edition.の(i)の定義から明らかである。

(i) beast: an inhumanly cruel, violent, or depraved person

(*Oxford Dictionary of English*. Second Edition.)

また、日本語の「けだもの」も下記の定義が示すように、ののしり表現として用いられる。

(ii) けだもの：不人情な人やろくでもない人間をののしっていう称。人でなし。

(『広辞苑』(第6版))

## 参考文献

- 安藤貞雄. (2005) 『現代英文法講義』 東京：開拓社.
- Carter, R. and M. McCarthy. (2006) *Cambridge Grammar of English: A Comprehensive Guide*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Curme, G. O. (1931) *Syntax*. Boston: D.C. Heath and Company.
- Greenbaum, S. and J. Whitcut. (1988) *Longman Guide to English Usage*. London: Longman.
- Hook, J. N. and E. G. Mathews. (1956) *Modern American Grammar and Usage*. New York: The Ronald Press Co.
- 石橋幸太郎、広瀬泰三、高梨健吉、鳥居次好、渡辺藤一(編). (1966) 『英語語法大辞典』 東京：大修館書店.
- Lee, D. A. (1991) "Categories in the Description of *Just*," *Lingua* 83, 5-28.
- Staff of Research and Educational Association. (1992) *REA's Handbook of English Grammar, Style, and Writing*. Piscataway, NJ: Research and Educational Association.
- Swan, M. (2005) *Practical English Usage*. Third Edition. Oxford: Oxford University Press.
- 綿貫陽、宮川幸久、須貝猛敏、高松尚弘、マーク・ピーターセン. (2000) 『ロイヤル英文法 改訂新版』 東京：旺文社.
- Wood, F. T. (1962) *Current English Usage*. London: Macmillan.

## 辞典

- 『アンカーコズミカ英和辞典』(2007) 東京：学習研究社.
- Cambridge Advanced Learner's Dictionary*. Third Edition. (2008) Cambridge: Cambridge University Press.
- 『ジーニアス英和大辞典』(2001) 東京：大修館書店.
- 『広辞苑』(第6版) (2008) 東京：岩波書店.
- 『ライトハウス英和辞典』(第5版) (2007) 東京：研究社.
- 『オーレックス英和辞典』(2008) 東京：旺文社.
- Oxford Dictionary of English*. Second Edition. (2003) Oxford: Oxford University Press.
- 『新英和中辞典』(第7版) (2003) 東京：研究社.
- 『ウイズダム英和辞典』(第2版) (2007) 東京：三省堂.